

今日のキーワード 新型コロナの治療で『抗体医薬』にも注目が集まる

新型コロナの感染拡大が続いていますが、予防に使うワクチンの開発と共に、治療薬の開発も進んでいます。治療薬の分野で本命とされるのが『抗体医薬』で、この新薬が米国で相次ぎ条件付きで使えるようになりました。接種が始まった新型コロナワクチンと『抗体医薬』により、新型コロナ克服への期待が高まっています。今後の『抗体医薬』の開発動向にも注目が集まります。

ポイント1 新型コロナの感染拡大で『抗体医薬』の注目が高まる

- 人は体内に無い異物を排除する抗体というたんぱく質をつくり出して病気を防いでいます。この仕組みを利用して、病気の原因となっている物質に対する抗体をつくり、体内に入れ、病気の予防や治療をおこなう薬が『抗体医薬』です。『抗体医薬』は、遺伝子組み換え技術などのバイオ技術を使ってつくられます。体内で薬が狙った場所にピンポイントで届くため、副作用が少ないなどの利点があります。
- 新型コロナが感染拡大するなか、これまで新型コロナの治療薬は「レムデシビル」など他の病気向けに開発されたものを転用したものでした。今年の11月に米社が開発中の『抗体医薬』に特化した新薬が相次いで米国内で条件付きで使えるようになり、『抗体医薬』への注目が高まっています。

【主要な新型コロナを対象とした抗体治療薬開発状況】

ポイント2 国内外で『抗体医薬』の開発が進展

- 米食品医薬品局（FDA）は11月に新型コロナの治療薬として米製薬大手のイーライ・リリー、米リジェネロン・ファーマシューティカルズが開発していた『抗体医薬』新薬の緊急使用を許可しました。早い段階で体内のウイルスの増殖を抑えれば、重症化リスクも減らせる効果が期待されています。
- 武田薬品工業は19年に6兆円強を投じて買収したアイルランドのシャイアーが持つ技術などを活用して「免疫グロブリン製剤」を中心に開発を進めています。10月から国内外での最終治験が始まっており、早ければ年内にも治験結果がまとまる予定です。血液から作るため、有効性などは比較的高いといわれています。

企業名	種類	開発状況
米国イーライ・リリー他	抗体医薬	米国緊急使用許可
米国リジェネロン・ファーマシューティカルズ	カクテル抗体	米国緊急使用許可
英国グラクソ スミスクライン他	抗体医薬	最終段階（第3相試験）
英国アストラゼネカ	カクテル抗体	最終段階（第3相試験）
武田薬品工業など	免疫グロブリン製剤	最終段階（第3相試験）

（出所）各種報道を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 『抗体医薬』が、コロナ克服へつながることが期待される

- 新型コロナに対する『抗体医薬』の開発が急ピッチで進んでおり期待は高まっています。一方で、緊急使用許可が出た2つの新薬は最終治験を続けて効果や副作用などを検証している段階にあります。また『抗体医薬』は量産に時間と手間がかかるため高額になりやすいなどの課題が残ります。これらの課題が解決され『抗体医薬』とワクチンの普及が進めば、新型コロナ克服につながると期待されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここもチェック！

2020年12月 3日 間もなく接種開始、新型コロナ『ワクチン実用化』へ
2020年10月30日 注目される『オンライン診療』の恒久化

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。